









## 出張命令書兼支出調書

支出番号	第 4-1 号	会派代表者	経理責任者
	30年4月9日 起票		
支出科目	調査旅費		
支出額	¥387,560		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅費 (円)	確認印
	1 高橋 弘巳	96,890	
	2 仲家 孝治	96,890	
	3 大石 祥一	96,890	
	4 衛藤 延洋	96,890	
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
2 用務先	①高知市 (4月17日 14:30~16:30)		
	②黒潮町 (4月18日 14:00~16:00)		
3 出張期間	30年4月17日 から 30年4月19日 ( : ~ : ) ( 2泊 3日 )		
4 用務内容	①よさこい移住プロジェクトについて		
	②黒潮町の防災対策について		
5 特記事項			

平成30年 4月 3日

総務課長 殿

会派名 新市民クラブ

氏名 大石 祥一



旅 費 ( 変 更 ) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

日 程	平成30年4月17日 ~ 平成30年4月19日
出張者	高橋 弘巳、仲家 孝治、大石 祥一、衛藤 延洋
用務地	①高知市 (4月17日 14:30~16:30) ②黒潮町 (4月18日 14:00~16:00)
用務内容	①よさこい移住プロジェクトについて ②黒潮町の防災対策について

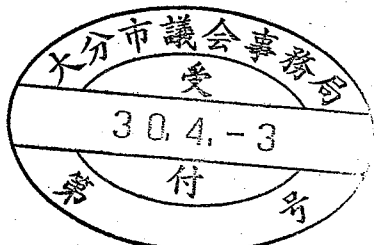
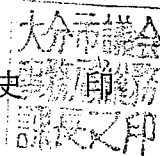
旅 費 計 算 書

経 路	4月17日 大分-小倉-岡山-高知 4月18日 高知-土佐入野 4月19日 土佐入野-高知-岡山-小倉-大分												
旅費内訳	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">交通費</td> <td style="text-align: right;">58,490</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>宿泊料</td> <td style="text-align: right;">28,500</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>日 当</td> <td style="text-align: right;">9,900</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">96,890</td> <td style="text-align: right;">円</td> </tr> </table>	交通費	58,490	円	宿泊料	28,500	円	日 当	9,900	円	計	96,890	円
交通費	58,490	円											
宿泊料	28,500	円											
日 当	9,900	円											
計	96,890	円											

上記のとおり通知いたします。

平成30年 4月 6日

総務課長 川野 洋史



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
4/17	大分市→高知市	3,300	15,000	26,050
4/18	高知市→黒潮町	3,300	13,500	3,690
4/19	黒潮町→大分市	3,300	—	28,750
		9,900	28,500	58,490

一人当たり旅費合計	96,890
-----------	--------

- ※ 用務終了後、22時頃までに帰る便に間に合わないため、後泊とする。
- ※ 大分-土佐入野間については往復切符を購入し、高知にて途中下車を利用する。

大分 ~ 高知 2018年4月17日(火) 7時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
<b>1</b>	<b>早安楽飛便</b>	6時間 27分	<del>25,660円</del>	687.0km
<b>2</b>	<b>早安楽飛便</b>	6時間 27分	<del>25,450円</del>	687.0km
<b>3</b>	<b>早安楽飛便</b>	26時間 25分	19,850円	

26,050円

経路 No.1

	2018/04/17	運賃	料金	距離
大分	発 07:14 <b>駅信</b>	11010円		
<b>特</b> ソニック8号	↓ <b>発夕着夕</b>	88分	2800円グリーン席	132.9km
小倉	着 08:42 <b>駅信</b> 乗換8分			
発 08:50 <b>駅信</b>				
<b>新</b> のぞみ14号	↓ <b>発夕着夕</b>	85分	8410円グリーン席	374.8km
岡山	着 10:15 <b>駅信</b> 乗換50分			
発 11:05 <b>駅信</b>				
<b>特</b> 南風7号	↓ <b>発夕着夕</b>	156分	3830円グリーン席	179.3km
高知	着 13:41 <b>駅信</b>			

大分-小倉-岡山-高知-土佐入野間については、往復切符を購入し、高知にて途中下車を利用する。

高知 ~ 土佐入野 2018年4月18日(水) 10時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安菜飛渡	1時間 38分	6,020円	106.4km
2	早安菜飛渡	2時間 48分	2,330円	106.4km
3	早安菜飛渡	2時間 1分	2,600円	

3,690円

経路 No.1

	2018/04/18	運賃	料金	距離
高知	発 11:39 駅宿	●	●	●
特南風3号	↓ 発夕着夕	98分 2330円	3690円グリーン席	106.4km
土佐入野	着 13:17 駅宿	●	●	●

0円  
往復切符を  
利用

土佐入野 ~ 大分 2018年4月19日(木) 8時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛便	7時間 29分	(割引)28,750円	793.4km
2	早安楽飛便	7時間 29分	(割引)28,750円	793.4km
3	早安楽飛便	9時間 51分	(割引)25,740円	793.4km
4	早安楽飛便	9時間 16分	(割引)25,950円	793.4km
5	早安楽飛便	22時間 43分	(割引)24,270円	

経路 No.1

		2018/04/19	運賃	料金	距離
土佐入野	発	09:31 駅宿			
特 南風12号	↓	発夕管夕	95分 割11010円	6530円グリーン席	106.4km
高知	着	11:06 駅宿 直通運転			
特 南風12号	↓	発夕管夕	147分		179.3km
岡山	着	13:40 駅宿 乗換11分			
新 のぞみ25号	↓	発夕管夕	85分	8410円グリーン席	374.8km
小倉	着	15:16 駅宿 乗換25分			
特 ソニック33号	↓	発夕管夕	79分	2800円グリーン席	132.9km
大分	着	17:00 駅宿			





支 出 調 書

支出番号	第 4-3 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 4月 23日 起票			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥1,890 —		
支出内容	地方議会議員ハンドブック 改訂版(衛藤議員)		
支出先	株式会社 ぎょうせい		

領収書等貼付欄

<input type="checkbox"/> 通常払込料金 加入者負担		<input checked="" type="checkbox"/> 振替払込請求書 兼受領証	
口座番号	00140 ■ 8 ■ 10000		
加入名	株式会社ぎょうせい		
金額	千	百	十
			円
振込先	みずほ	銀行	東京営業部 支店
<input checked="" type="checkbox"/> 依頼人住所氏名 ご依頼人住所氏名 を記入してください。	870-8504		
	大分県 大分市		
	荷揚町2-31		
	大分市議会事務局 気付 衛藤 延洋		
この受領証は、大切に保管してください。(CVS店記録)			
料	日 附 印		
金	30-04-23		
備	ゆうちょ		
考	円 銀行		
	大分店		
	(72001)		
	N94650015		

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

地方議会議員ハンドブック

# 地方議会議員 ハンドブック 改訂版

全国市議会議長会／著

## 議会運営の手引書

地方自治法や会議規則で定められている議会のルールについて、読みやすい2色刷りでわかりやすくまとめた1冊です!

きょうせい

支 出 調 書

支出番号	第 4-4 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 4月 23日 起票		高橋	吉
支出科目	資料購入費		
支出額	¥12,312 ー		
支出内容	月刊「カバナンス」 H30年4月号~3月号 (衛藤 議員)		
支出先	株式会社 ぎょうせい		
領収書等貼付欄		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     通常払込料金加入者負担                      振替払込請求書兼受領証                 </div>	

領 収 証

東京都江東区新木場1丁目18番11号 (〒136-8575)

株式会社 ぎょうせい

代表取締役 吉成 吉



収入印紙

衛藤 延洋 様

¥ 12,312. -

30年 4月 23日

領収証番号

180424-3005

取扱者

〔内 訳〕 上記のとおり領収いたしました。金額には消費税及び地方消費税が含まれております。

品 名	号 数	数 量	単 価	金 額
月刊「カバナンス」 30年 4月号~31年 3月号				12312

※ 本証に、領収証番号及び取扱者印のないときは、その責を負いません。

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

納品確認日	31年3月31日
納品確認者	高橋 弘巳

これからの地方自治を創る実務情報誌  
月刊

# ガバナンス



1999年6月16日第3種郵便物認可  
2018年4月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻228号

特集

## 自治体職員の魅力を どう高めるか

— 人手不足時代の自治体人材マネジメント



スキルアップ特集

地域に出て

わがまちをもっと知ろう!

平成につぼんの首長

稲村和美

兵庫県尼崎市市長

自治・地域再興



寺島 渉

前長野県飯綱町議会議員

ともに未来へ  
125 anniversary ぎょうせい

Governance

支 出 調 書


支出番号	第 4-5 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 4月 23日 起票			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥23,000 —		
支出内容	日経ヘルスケア 1年分 (12冊) (衛藤 議員)		
支出先	株式会社日経BP		

領収書等貼付欄

振替払込請求書 兼受領証	
通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号	00130-1-900101
加入者名	株式会社日経BP
金額	千 百 十 万 千 百 十 円 2 3 0 0 0
<input checked="" type="checkbox"/> 依頼人住所氏名	衛藤 延洋 様
	読者番号 2520739168 日経ヘルスケア 1年 (12冊) 用
	収納代行 DSK 電算システム
料 金	日 附 印 30-04-23 ゆうちょ 銀行 大分店 (72001) N94650016
備 考	

この受領証は、大切に保管してください。(CVS店舗控)

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

納品確認日	31年3月31日
納品確認者	高橋 弘巳 

2018年4月10日発行(毎月10日発行) 第342号 1989年12月20日第三種郵便物認可

医療・介護の経営情報

日経

ヘルスケア

NIKKEI  
HEALTHCARE

4

2018  
NUMBER 342

特集

徹底分析

2018年度

診療・介護

報酬同時改定

日経

# ヘルスケア

NIKKEI  
HEALTHCARE

3

2019  
NUMBER 353

特集 元年創刊の本誌と識者が過去から展望する未来

医療・介護

平成時代の



特集

介護経営のリスク回避へ

## 指定取消事例から得る教訓

REPORT

どうなる？

医師の働き方改革

全病院で労務管理が必須に



REPORT

総合診療医が

経営改善の決め手に

多様な患者の受け入れで病床稼働率が向上


支 出 調 書

支出番号	第 4-6 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 4月 23日 起票			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥90,720 —		
支出内容	日経グローバル1年分 (大石議員)		
支出先	株式会社日経BPマーケティング		

領収書等貼付欄

振替払込請求書兼受領証							
口座番号	00140	3	901469				
	株式会社 日経BPマーケティング						
金額	千	百	十	万	千	百	十
				9	0	7	20
ご依頼人住所氏名	大石 祥一 様						
	請求コード 10112944201803000001						
料 金	(消費税込み)		日 附 印				
	330	円	30-04-23 ゆうちょ 銀行 大分店 (72001) N94650014				
備 考							
この受領証は大切に、保管してください。							

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

納品確認日	31年 3月 31日
納品確認者	高橋 弘巳 



2018  
4/2  
No.337

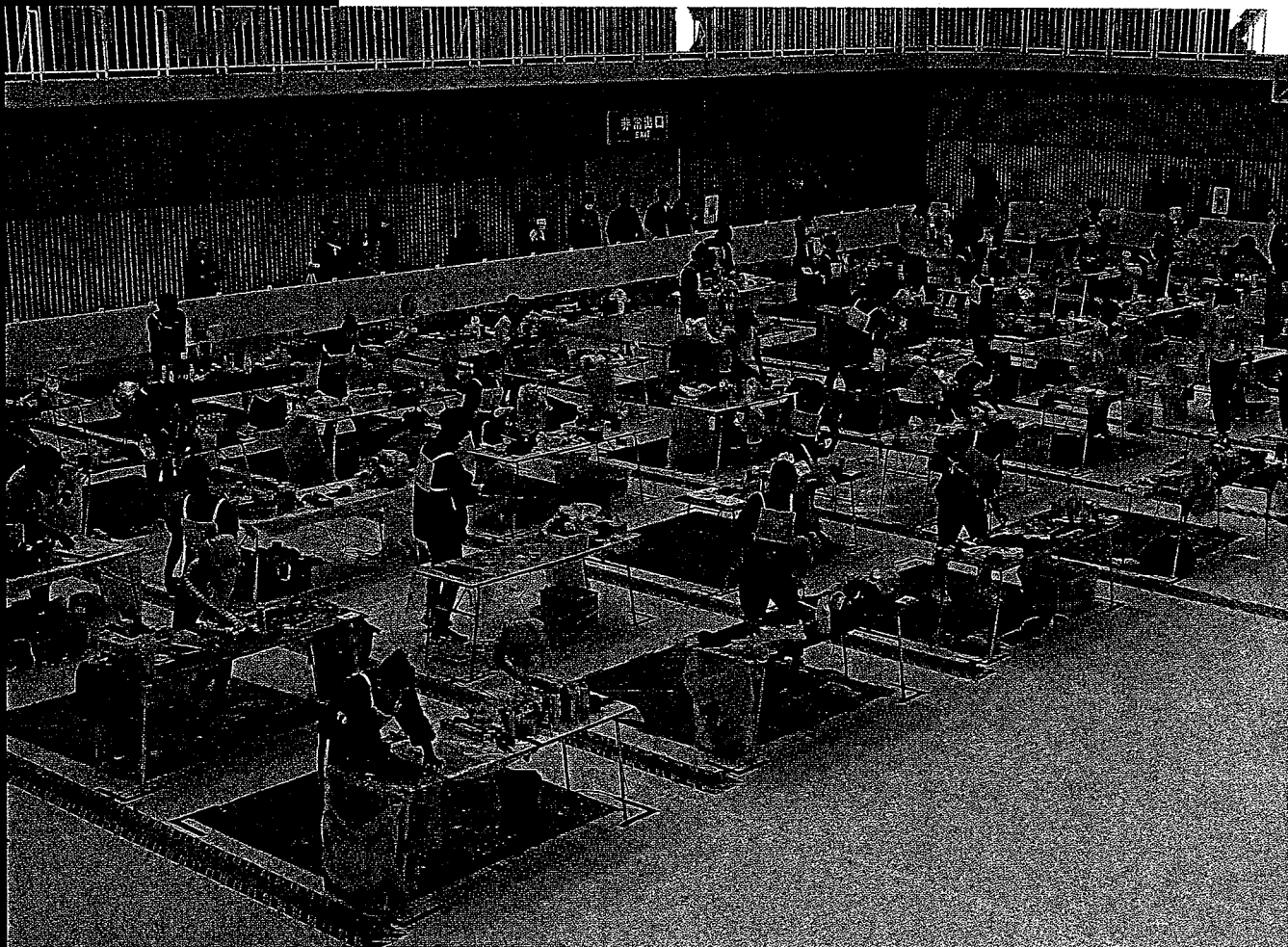
NIKKEI GLOCAL  
**日経 グローカル**  
創造的地域経営のための専門情報誌

**特集**



**2018年度都道府県予算 2年連続マイナス  
待機児童・貧困対策・教育に手厚く**

グローバル  
インタビュー  
フォーカス  
フォーカス

両備グループ代表 小嶋 光信氏  
地域公共交通が存続するには  
深刻化する看護師不足  
民泊規制条例



支 出 調 書

支出番号	第 4-7 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 4月 23日 起票			
支出科目	その他の経費		
支出額	¥330		
支出内容	振込手数料		
支出先	大分銀行		

領収書等貼付欄

振替払込請求書兼受領証									
日 記 簿 番 号	00140	3	901469						
	株式会社 日経BPマーケティング								
加 入 者 名	千 百 十 万 千 百 十 円								
	9 0 7 2 0								
金 額	大石 祥一様								
	請求コード 10112944201803000001								
ご 依 頼 人 住 所 氏 名	(消費税込み)								
	日 附 印								
料 金	330 円								
	30-04-23 ゆうちょ 銀行 大分店 (72001)								
備 考									

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。



平成 30年 4月 25日

会派代表者 殿

会派名 新市民クラブ

氏名 萩本 正直





### 燃料費計算書





(平成 30年 4月分)

月 日	燃料費 (円)	支出先
4月25日	5,300	鶴崎運輸株式会社
計	① 5,300	
控除すべき金額	②	(②の控除理由)
小計 (①-②)	③ 5,300	
請求額 (③×25%)	1,325	

※ 領収書 (カード利用の場合は納品書) は裏面に貼付してください。  
※ 領収書 (カード利用の場合は納品書) は車番、給油年月日、金額が記載されていること。

旅費精算兼旅行命令変更書

支出番号	第 4-9 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 4月 27日 起票			
支出科目	調査旅費		
支出額	0 -		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅 費 金 額			精算印
		精算前	精算後	差 額	
1	高橋 弘巳	96,890	96,890	0	   
2	仲家 孝治	96,890	96,890	0	
3	大石 祥一	96,890	96,890	0	
4	衛藤 延洋	96,890	96,890	0	
5					
2 用務先	①高知市 (4月17日 14:30~16:30) ②黒潮町 (4月18日 14:00~16:00)				
3 出張期間	平成 30年 4月 17日から 4月 19日まで ( 2泊 3日)				
4 旅 費	概算額 387,560 円 精算額 387,560 円 差 額 0 円				
5 用務内容	①よさこい移住プロジェクトについて ②黒潮町の防災対策について				
6 特記事項 (変更理由)	----- -----				

総務課長 殿

会派名 新市民クラブ

氏名 大石 祥一



旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

日 程	平成30年4月17日 ~ 平成30年4月19日
出張者	高橋 弘巳、仲家 孝治、大石 祥一、衛藤 延洋
用務地	①高知市 (4月17日 14:30~16:30) ②黒潮町 (4月18日 14:00~16:00)
用務内容	①よさこい移住プロジェクトについて ②黒潮町の防災対策について

旅 費 計 算 書

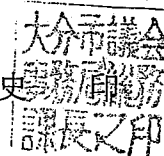
経 路	4月17日 大分-小倉-岡山-高知 4月18日 高知-土佐入野 4月19日 土佐入野-高知-岡山-小倉-大分												
旅費内訳	<table border="0"> <tr> <td>交通費</td> <td>58,490</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>宿泊料</td> <td>28,500</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>日 当</td> <td>9,900</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>96,890</td> <td>円</td> </tr> </table>	交通費	58,490	円	宿泊料	28,500	円	日 当	9,900	円	計	96,890	円
交通費	58,490	円											
宿泊料	28,500	円											
日 当	9,900	円											
計	96,890	円											

上記のとおり通知いたします。



平成30年 4月 6日

総務課長 川野 洋史



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
4/17	大分市→高知市	3,300	15,000	26,050
4/18	高知市→黒潮町	3,300	13,500	3,690
4/19	黒潮町→大分市	3,300	—	28,750
		9,900	28,500	58,490

<b>一人当たり旅費合計</b>	<b>96,890</b>
------------------	---------------

- ※ 用務終了後、22時頃までに帰る便に間に合わないため、後泊とする。
- ※ 大分-土佐入野間については往復切符を購入し、高知にて途中下車を利用する。

大分 ~ 高知 2018年4月17日(火) 7時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛長	6時間 27分	<del>25,660円</del>	687.0km
2	早安楽飛長	6時間 27分	<del>25,450円</del>	687.0km
3	早安楽飛長	26時間 25分	<del>19,850円</del>	

26,050円

経路 No.1

	2018/04/17	運賃	料金	距離
大分	発 07:14 駅宿	88分	11010円	
特ソニック8号	↓ 発 夕 夕		2800円グリーン席	132.9km
小倉	着 08:42 駅宿 乗換8分			
発 08:50				
新のぞみ14号	↓ 発 夕 夕	85分	8410円グリーン席	374.8km
岡山	着 10:15 駅宿 乗換50分			
発 11:05				
特南風7号	↓ 発 夕 夕	156分	3830円グリーン席	179.3km
高知	着 13:41 駅宿			

大分-小倉-岡山-高知-土佐入野間については、往復切符を購入し、高知にて途中下車を利用する。



高知 ~ 土佐入野 2018年4月18日(水) 10時0分 発

決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離	
1	早安楽飛場	1時間 38分	6,020円	106.4km	3,690円
2	早安楽飛場	2時間 48分	2,330円	106.4km	
3	早安楽飛場	2時間 1分	2,600円		

経路 No.1

	2018/04/18	運賃	料金	距離
高知	11:39 駅宿	0円	0円	
特南風3号	↓ 発夕着夕	98分 2330円	3690円グリーン席	106.4km
土佐入野	13:17 駅宿	0円	0円	

往復切符を利用

土佐入野 ~ 大分 2018年4月19日(木) 8時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛長	7時間 29分	(割引)28,750円	793.4km
2	早安楽飛長	7時間 29分	(割引)28,750円	793.4km
3	早安楽飛長	9時間 51分	(割引)25,740円	793.4km
4	早安楽飛長	9時間 16分	(割引)25,950円	793.4km
5	早安楽飛長	22時間 43分	(割引)24,270円	

経路 No.1

	2018/04/19	運賃	料金	距離
土佐入野	乗 09:31 駅宿			
特 南風12号	↓ 乗夕管夕	95分 割11010円	6530円グリーン席	106.4km
高知	管 11:06 駅宿 直通運転			
管 11:13				
特 南風12号	↓ 乗夕管夕	147分		179.3km
岡山	管 13:40 駅宿 乗換11分			
管 13:51				
新 のぞみ25号	↓ 乗夕管夕	85分	8410円グリーン席	374.8km
小倉	管 15:16 駅宿 乗換25分			
管 15:41				
特 ソニック33号	↓ 乗夕管夕	79分	2800円グリーン席	132.9km
大分	管 17:00 駅宿			



# 行政視察報告

会派名 新市民クラブ

【視察日】 平成30年4月17日

【視察先】 高知市

【視察者】 高橋弘巳、仲家孝治、大石祥一、衛藤延洋

【対応者】 高知市総務部市長公室政策企画課移住・定住促進室

室長 森田 加奈子

高知市議会事務局参事兼議事調査課

課長 山崎 敬造 主任 宮内 恵理

【調査事項】 高知市の移住・定住「よさいこい移住プロジェクト」について

## 【調査概要】

### 1. 動態

- |          |                        |
|----------|------------------------|
| (1) 市制施行 | 明治22年4月1日              |
| (2) 人口   | 330,019人 (平成30年4月1日現在) |
| (3) 世帯   | 162,657世帯              |
| (4) 面積   | 309,00k m <sup>2</sup> |
| (5) 人口推移 |                        |
| 平成22年    | 343,393人               |
| 平成27年    | 337,190                |
| 平成29年    | 332,059                |
| 平成30年    | 330,019                |

(以下、担当者説明要旨及び恵与資料による)

高知には、ちょうど良い、ぴったりという意味の「ぼっちり」という土佐弁がある。人口34万人の県都で、ほどほどに都会で、ほどよく田舎の魅力を持った小さな街であり、人が暮らすのにまさに「ぼっちり」の都市サイズである。

市域は大分市の6割程度の広さで、市街地としては南北3キロ、東西5キロほどで、そのエリアの中に街の機能がぎゅっと詰まったコンパクトシティで路面電車とバスがあれば十分。市街地ならむしろ、自転車のほうが便利とのことであった。

### 2.

#### (1) 基本理念『住んでみたい・住み続けたいまち高知市』

高知市移住・定住促進計画は、予想される少子高齢・人口減少社会という生産年齢人口の大幅な減少や高齢化率の大幅な上昇と、それに伴うさまざまな課題の解決のため、人口の社会増を目指し、外部からの人材を受け入れるとともに、すべての市民が「住んでみたい、住み続けたい」と感じる高知市としていくために、地域社

会、経済の活性化を図りながら、人口減少を克服することを目的とし計画期間は2015（平成27）年度から2019（平成31）年度までとしている。

## （2）基本方針

① 「住んでみたい・住み続けたいまち高知市」の実現には、多様なニーズに応える一つひとつの施策を充実させ、サービスの向上を図り、魅力あるまちづくりを進める必要から、都市部から中山間地域まで、多彩な特色を活かした魅力的なまちにする。

② 移住・定住促進計画では、実効性を高めるために総合計画（実施計画）における数値目標等施策の効果検証等を行い、さらに具体的な施策を実施し、成果につなげていく。

移住・定住促進計画の数値目標は、総合戦略の基本目標の一つである「新しい人の流れをつくる」ための数値目標とし、転入の促進と転出の抑制を目指す成果とする。

## （3）目指す成果（数値目標）

### ① 転入の促進

2014（平成26）年度の高知県外からの移住組数実績 112 組から、2019（平成31）年度には県外からの移住組数 200 組を目指す。

※2016（平成28）年度の県外からの移住組数実績 125 組

### ② 転出の抑制

2013（平成25）年 15～24 歳の県外への転出超過数 762 人から、2019（平成31）年には 212 人抑制し、550 人を目指す。

## （4）プロジェクトチームの設置

### ① 設置の目的

市外から高知市への移住の促進及び当該移住をした者を含めた市民の高知市への定住の促進に向けた検討を行い、担当部局が連携して移住・定住促進に向けた施策の推進に取り組み経済及び地域の活性化を図る。

### ② 活動内容（所掌事務）

- 移住・定住促進に関する計画の策定、見直し等の検討を行うこと
- 移住・定住促進に関する情報共有を行うこと
- 移住・定住促進に関する施策の検討を行うこと
- その他移住・定住促進のために必要な検討を行うこと

### ③ 組織（委員）

移住・定住促進に関わる市職員のうちから市長が任命・委嘱する 20 人以内（課長補佐級～係長級）

### ④ プロジェクトチームの検討経過

平成 26 年 12 月	高知市移住・定住促進プロジェクトチーム設置要綱制定
平成 27 年 1 月	平成 26 年度第 1 回プロジェクト会議 (平成 26 年度は計 4 回の会議を開催)
4 月	平成 27 年度第 1 回プロジェクト会議
9 月	「高知市移住・定住促進計画 (案)」パブコメ実施
11 月	「高知市移住・定住促進計画」を策定 (平成 27 年度は計 7 回プロジェクト会議を開催)
平成 28 年 4 月	平成 28 年度第 1 回プロジェクト会議
9 月	「高知市移住・定住促進計画」平成 28 年度改定版を策定 (平成 28 年度は計 3 回プロジェクト会議を開催)
平成 29 年 10 月	「高知市移住・定住促進計画」平成 29 年度改定版を策定

高知市：高知市の移住・定住「よさこい移住プロジェクト」について

【所 感】高橋 弘巳

1. 高知市では、高知市移住・定住促進計画を策定し、平成27年度から平成31年度までの5年間で計画期間とし積極的に取り組んでいる。

基本理念として、「住んでみたい・住み続けたいまち高知市」としており、目指す成果（数値目標）として移住組数200組を目指している。また、転出の抑制550人を目指している。

特徴は

移住窓口に関する総合窓口、移住専門の部署を設け、取り組んでいること、広報から、連絡先も問い合わせ先も移住・定住促進室となっており、ワンストップサービスとなっており、移住を検討している方の側からの目線で取り組んでいるように感じる。

しかし、大分市は商工労働観光部の「おおいた魅力発信局」が移住・定住について所管しているが、その中で、就職の問い合わせは「おおいた産業人財センター」、住宅の問い合わせは住宅課となっており、移住・定住を考えている方々にとっては、総合的にどこに相談していいのかわからない状態となっている。

ここから、大分市として移住計画の推進に取り組むとして、一歩として、名称の工夫が必要かと感じる。移住・定住促進というネーミングを付けた担当部門を設けるなど、移住希望者に分かりやすくしていく必要があると感じる。

インターネット・情報媒体の充実が図られており、ホームページや広報誌を見させていただいたが、住みたくなるような魅力を満載に掲載していた。

さらに、お試し滞在施設の運営、移住相談会等の実施・三世代同居等Uターン支援事業などを実施、仕事・住まい・暮らしについても住居、就職、そして移住した方には、サポーターを設け、フォローしている。また、お試しの住居も整えており、一連の流れが、一貫している。移住してみたいと感じるように、体制を整えている。

全国的にも有名な、「高知よさこい祭り」の認知度を利用し、「よさこい移住計画プロジェクト」というネーミングをつけ、若者を引き付ける取り組みをし、若者の移住も多いという。

大分市は、気候も温暖であり、災害も少なく、山の幸、海の幸にも恵まれている。さらに、産業都市でもある。このような利点を生かしていくことも必要である。大分市も人口減少に突入し、佐賀関や野津原は過疎化が進んである。空き家については、一万軒ほどあると言われており、大都市圏からの移住促進し、これらを活用することも必要である。移住してくれば、活力が生まれてくるように思われる。地域の活性化の一つとしても積極的に取り組むべきと考える。一般質問にて、提言をしていきたい。

高知市：高知市の移住・定住「よさこい移住プロジェクト」について

【所 感】仲家孝治

高知市の「よさこい移住プロジェクト」この事業名を目にしたとき正直に言って本当に行政が取り組んでいるのかな？との思いがあった。しかし、内容はしっかりとしており、取り組み期間は平成 27 年度から平成 31 年度までとし、情報発信として、専用ホームページ「こうちらいふ」の立ち上げまた、フェイスブック、インスタグラムの開設とさまざまな形で情報を発信している。「よさこい踊り」は現在では、全国各地で行われ全国大会までであると聞いている。「よさこい移住プロジェクト」はまさに、よさこい踊りを愛する人々をターゲットとして移住・定住に評判を呼んでいる。高知市の将来の人口減少社会に向けての真剣さが伝わってくる。

さて、大分市の取り組みはどうであろう、現在様々な取り組みを行っている。これについては評価しますが、「七夕祭り」、「つるさき踊り大会」その他にも沢山の地域の特徴ある踊りや祭りがある。この様な祭りや、踊りで市内外から定住促進を募る企画も面白いのではないだろうか？マンネリしつつある事業の見直しも含め面白いと私は思う。



高知市：高知市の移住・定住「よさこい移住プロジェクト」について

【所 感】大石 祥一

高知市においても、ここ数年で人口減少・高齢化率が進み、これらに歯止めをかけることが課題となっている。

中でも、「よさこい移住プロジェクト」は、移住を促す文句（住みやすい・食べ物が美味しい等）を使わずに、よさこい踊りに非常に興味がある（愛する）方を対象に進めており、正しく「友が友を呼ぶ（よさこい踊りが仲間を呼ぶ）」的な発想からプロジェクトであると感じた。（大分市の鶴崎踊りや関の鯛釣り踊りではここまで出来ないと思う。）

そして、移住してきた方々を「よさこい移住応援隊」として宣伝活動やフェイスブック、移住後のくらしやイベント情報を発信して移住希望者や移住者を支援している。

この事から、対象者は非常に限られた方になると思うが、定住率は極めて高いものと個人的に感じた。

一般的な移住者に対する対応との差は、よさこいを愛する人々に支えられていることであろう。そして、高知市民のよさこいに対する情熱は想像以上のものが感じられた。

【所 感】衛藤延洋

【視 察 先】高知市

### 1. 組織

高知市では平成 26 年度から、移住・定住促進に関する情報の収集・発信の一元化を図り、移住希望者からの問い合わせに総合的に対応できる窓口を総務部市長公室に設置しており、市内外への市長のこの移住プロジェクトに取り組む姿勢が感じられる。

移住の定義については、転勤や学生を除く上での他県からの転入者を指している。

### 2. 情報発信

情報の発信としては、専用ホームページ「こうちらいふ」を立ち上げ、市の仕事・住まい・暮らしに関する情報や、よさこい移住、移住体験談など、移住を検討される際に必要な情報を発信している。

平成 26 年 10 月からフェイスブック「高知市×移住『こうちらいふ』」、昨年 9 月にはインスタグラム「暮らすにぼっち高知市移住・定住」を開設し、市のさまざまな情報を発信している。

一方で、直接的な情報提供の場として、市への移住の検討者や田舎暮らしに興味がある者に対する移住相談会に参加している。

・平成 29 年 6 月 24 日(土)～ 25 日(日)「高知暮らしフェア」

相談者数…6/24 大阪会場 15 組 24 人

6/25 東京会場 22 組 30 人

さらに、希望者への取り組みとしては、ほぼ年間を通して平日、市への移住を希望する県外在住者を対象に、移住関連施設の見学やまち歩きなど、高知の魅力を紹介する「いつでもご案内暮らすに『ぼっち』高知市ガイドツアー」を実施している。

### 3. 他市町村との連携

平成 30 年度からの事業として、大都市圏から田舎への移住に不安を抱え、移住に踏み出せない潜在的移住希望者を対象に、高知県内に移住するにあたっては、まずは比較的都市機能の整った高知市にいったん移住・滞在（一段階目）してもらい、そこを拠点に高知県内を巡りながら自分に合った場所を見つけて、最終的に安心して移住（二段階目）してもらい、二段階移住を県内 21 市町村と連携しながら支援するとしている。

### 4. 三世代同居等支援事業

高知市では、三世代同居等となる子育て世帯の移住・定住を促進することを目的に、子育て支援や老後の不安解消など、お互いに助け合いながら暮らせる安心のまちづくりをめざして、三世代同居等となる子育て世帯の県外からの転

入費用や定住費用を支援する「三世代同居等Uターン支援事業」を平成 28 年度から実施している（H28 年度実績 14 組 39 人、H29 年度実績 7 組 23 人）。

## 5. まとめ

高知市は、毎年 8 月に四日間に渡って開催される「よさこい祭り」がある。この祭りは比較的新しく、1954（昭和 29）年に高知で誕生し、祭りを愛する市民の手によって大きく成長している。さらに、1999 年から始まった、よさこい全国大会。全国各地から集結した「よさこい人」がそれぞれの地域で育ったよさこい鳴子踊りを本場高知で披露する大会である。

「よさこい移住プロジェクト」はその全国的な祭りの名称を冠として施策に使用するという、画期的な考え方である。

この事業は、また、定住することに意義がある。そのことについては、移住後の不安や心配事の解消、また本市への愛着を感じてもらうことを目的に、平成 28 年度から、高知市へ移住（転入）した方を対象に移住交流会を開催。移住者同士の交流や情報共有の場を提供するほか、市の自然・歴史・文化等を紹介し、市への定住につなげている。

移住に向けた取り組みは、全国の自治体で行われている。その中で移住先として選択されるためには、地域の特性や魅力を前面に打ち出した特色ある取り組みが必要となる。

そこで、上記でも触れたが他都市にはない、高知市の強みである「よさこい祭り」を移住・定住施策の前面に打ち出し、よさこいを愛する人々をメインターゲットにした「よさこい移住プロジェクト」は評判を呼んでいる。

この事業に関わる広報の取り組みもパンフレット等は 10 種類近くにのぼり、人口減少を現実のものと捉え、将来世代の確保を念頭に入れていることが伝わってくる力の入れようであり、今後も期待できる高知市での施策であると感じた。



### 3. 施策指針の要点

「犠牲者ゼロ」をめざすためには、防災・減災が文化として、生活の中に溶け込まなければならない。しかも、ソフト事業だけでは、「災害で命を落とさないまちづくり」は困難であり、「防災文化（ソフト事業）」と「防災文明（ハード事業）」のバランスがとれた「防災に強いまちづくり」を進めなければならない。

### 4. ハードとソフト対策

ハード事業としての防災文明の整備は、平成25年度から28年度にかけて津波避難タワーの整備避難困難区域である町内6地区で津波避難タワーの建設を終えた。

高台への避難が困難な地域については、震災時でも安全に使える幹線避難道の整備を進める。「自動車避難容認地区」から「バックヤード地区」にかけては、地区幹線避難道を指定し、震災時でも自動車避難の安全性が高まる対策を推進する。また、避難道の整備ワークショップ等で提案された内容を精査し、約230箇所の避難道を整備する方針とした。平成28年度末で9割の整備が完成した。夜間照明や避難誘導標識も整備を進めている。

ソフト事業としては、職員地域担当制の導入である。町内61地区の内、40地区が浸水すると想定され、全ての浸水地区で防災を進めるためには、防災担当部署の職員だけでは人員不足であることから、人的資源不足を補い、早急な地震・津波対策を行うため、全ての町職員(約200名)が防災担当を兼務し、地域住民と協力してきめ細かな防災活動を行っている。

### 5. 世帯別津波避難行動記入シート

避難空間を整備することで、ある一定の住民は避難が可能になる。しかし、高齢者や障害者、避難場所まで遠い集落など、避難行動そのものが困難な状況もある。「犠牲者ゼロ」を達成するには、避難が難しい住民一人ひとりに合わせた個別の避難計画を立てる必要と考え、基礎的な状況の把握として、全住民の避難行動を調査することを目的として、戸別津波避難カルテづくりを実施し、避難困難者数と自動車避難数を把握している。

なお、その説明会である懇談会参加率は約63%に上り、対象となる全世帯3,791世帯分を収集している。

### 6. 地区防災計画

平成25年6月に改正された災害対策基本法では、地区の居住者等が自発的な防災活動に関する計画「地区防災計画」について定めることができるとされている。黒潮町においても、行政による対応には限界があり、地域住民が自らの命と自らの地域を守り、自ら作成する地域特性を反映した、手作りの防災計画が必要不可欠となった。

そこで、地区防災計画作成に向けた地区説明会を開催し、次のことを訴え

た。

- ・行政主導の防災対策には限界がある
- ・防災の日常化へ向けたシフトチェンジの必要性
- ・地域住民が自らの命と自らの地域を守り、自ら作成する地域特性を反映した我がこととして感じられる手作りの防災計画

○A 地区（事例）

初回の開催として、地区防災計画の概要説明や地区内の避難経路における課題抽出等を実施。

○B 地区（事例）

原則は徒歩での避難であるが、車避難の有効性についても検証し、車で避難する場合の課題等を抽出した。

○C 地区（事例）

津波避難タワーの備蓄倉庫へ、世帯ごとの保管箱を用意して備蓄を進めている。

○D 地区（事例）

津波の影響を受けない高台にあることから、地震を想定し、全世界帯を対象とした家具固定を実施した。

## 7. 20年かけて、“災害に強い地域文化”をつくる

防災教育は、継続することがもっとも重要。防災教育は、他の科目と異なり、教科として授業計画に組み込まれていない。

そのため、授業を実践する場合には、総合や学級活動などの時間を割く必要がある。このため、現場の教職員の裁量にかかっている。

防災教育を実践するうえでもっとも重要なことは、“継続”すること。もちろん、授業実践を繰り返して、授業内容の改善を図っていくことは重要であるし、その努力が求められている。そして、最も重要なことは、一時のブームで終わることなく、黒潮町の教職員全員が毎年必ず何らかの形で防災教育に関する実践を継続することであるとしている。

黒潮町：黒潮町の防災対策について

【所感】高橋 弘巳

人口は1万人、旧佐賀関町の人口程度である黒潮町は、東南海地震において、津波高さが33.4mと日本で一番の津波高さの予想がされている。防災対策、要援護者対策、また、町民にとって、どのような生活を営んでいけばいいのか、モチベーションについては、どのようになっているのかなどについて、視察に伺った。

津波高さが33.4mということであり、視察に行く前に、宿泊施設のホテルの海拔がどのくらいなのかを調査をしたが、黒潮町の海沿いにあるホテルは、10m程度なので、遠慮させていただいた。隣接する四万十市のホテルに宿泊をするようにしたが、いずれも10m以下の低地にあり、地震が起きた時の避難路について、自ら考えざるを得なかった。ホテルでは、覚悟を決めたという気持ちにもなった。

黒潮町の駅につくと、町役場は、国の補助金を活用し40億円の費用を投じて1月に高台に移転されていた。道路は整備されて、町としては予算規模が低いと感じられない雰囲気を感じた。

津波様様！であると関係者が漏らしていたが、地元土木関係者は、津波対策で潤っているということであった。

町のトップは、津波高さ全国一を一つの要素として、国の補助金を得るような要請をされているという。そして、理解が得られ整備がされているという。

津波高さの33.4mという高さは、黒潮町から少し離れた半島の地域であり、町の中心部では、そこまでの高さではないということが分かった。

とてつもない高さの政府が予想した津波高さに対して、町民は、悲嘆に陥っていたが、町長が、訓示の中で、1人も犠牲者を出さないように取り組むと、町民を励まし、津波対策が始まったという。

多くの補助金を国の方に積極的に働きかけ、津波対策が始まったという。

その対策の「犠牲者ゼロ」を目指す地震対策に取り組み

① 職員地域担当制

全職員が通常業務に加え防災業務を兼務する体制の確保

② 避難空間の整備

・避難道について230か所の整備

・津波避難タワーの整備

6基設置しており、その中の1つが22mの高さとなっている。その費用は6億円、その他の避難タワーは、1億～2億円である。

・備蓄倉庫

100か所整備

・津波避難誘導標識の整備

約900か所(約1000枚) 2億円

- ③ 個別津波避難カルテづくり
  - ・津波浸水が予測される地区の全世帯の避難行動を調査
- ④ 地区の防災7計画
  - ・手作りの防災計画
- ⑤ 木造住宅耐震化等の促進
- ⑥ 応急機能配置計画
- ⑦ 避難所運営マニュアル作成
- ⑧ 告知放送端末機
- ⑨ 町備蓄計画
- ⑩ 缶詰製作所
- ⑪ 防災教育プログラム
  - ・20年かけて災害に強い地域文化を作る
- ⑫ 防災訓練の実施

この中で、⑩の缶詰製作所については、あきらめないまちの「産業構造」として、日本一の想定に怯まず防災対策に真摯に取り組んできた結果、「防災の町という資源」を手にした。その資源の一つが、災害時の非常食を自分たちで作る備え、新たな産業を興したということ。そして他に販売していくという雇用対策にも取り組んでいるということに感銘をした。ある面でのしたたかさも感じたところである。

12のプログラムを実施する中、防災の日常化へ向けたシフトチェンジ、防災が地域の「文化」となるようにしていきたいとしている。

つまり、津波の高さ13.4mは、究極でいえば「文化」としてことであった。

大分市では、防災対策として三佐地区に防災公園を本年中に完成予定である。これまで、自主防災組織などを作り、自らの身は自らで守ると言いながら、市民の危機意識は、まだまだ、行政に任せという感があるが、これから、行政がリードしてきた構造を段階的に市民にシフトしていくことが必要であると感じた。



黒潮町：黒潮町の防災対策について

【所 感】仲家孝治

黒潮町では、30年以内に60～70%の確率で発生が予想される南海トラフを震源とした巨大地震では、最大震度7が予想されまた最大津波の高さが34.4メートルと言われている。そのようななかハード事業として、津波避難タワーを平成25年から28年にかけて整備を終えている。今後は、夜間照明や避難誘導標識の整備も行っていくとのことである。ソフト事業としては、職員地域担当制の導入である。町内61地区の内、40地区が浸水すると想定され、全ての浸水地域で防災を進めるためには、防災担当部署の職員だけでは人員不足であることから、人的資源不足を補い、早急な地震・津波対策を行うため、全ての町職員（約200名）が防災担当を兼務し、地域住民と協力してきめ細かな防災活動を行っている。

大分市においても、自助、共助、公助で地域防災活動に取り組んでいるところである、自主防災組織数も現在597組織となっており、その組織も各自治体を中心に活動している。避難訓練も定期的実施されており素晴らしい取り組みだと思っております。しかし課題は多いため一点目は、津波の高さが6～8メートルと低いため市民の皆さんへの危機意識が薄くなっているのではないだろうか？二点目は津波到達時間が長いと予想されているため何時でも逃げられると思っているのではないだろうか？南海トラフを震源とした巨大地震では、まずは自分の行動をしっかりと考えて行動を取れる訓練が私は必要だと思います。今後夜の避難訓練実施を行うことも必要ではと思います。

## 黒潮町：黒潮町の防災対策について

### 【所感】大石 祥一

黒潮町においては、南海トラフ発生時に約10m～34mという想像もつかない津波が押し寄せてくるとのことだった。

これに対して、町の防災対策を伺ったが、地震発生から津波の到達迄数しかないことから、CGで津波の被害状況を実際の町を用いてシミュレーションして町民に津波の怖さを疑似体験してもらうなどしていた。

そして、町民全員が「あきらめない 揺れたら逃げる より速く より安全なところへ」を合言葉に防災活動を行っていることには感心した。

そして、この町だから出来ることは、避難所に予め世帯ごとの備蓄品を置いてあることだった。いざという時は、何も持たずに避難所に逃げられ、家に非常持ち出し袋等を取りに帰る必要がなく、逃げ遅れる心配もなくなると感じた。

また、34mと言った想像もできない津波がくるとされることを逆手にとり、町のイメージアップを図るために「34M」をブランド化して、この町の缶詰製作所の商品として売り出していることには正直驚きました。

さらに、通常昼間行う避難訓練を、夜間行うといった取組みにも感心しました。

いずれにしても、津波被害を最小限にする取組みは、町一丸となって取り組んでいることが肌身で感じとれました。

本市において、津波の到達時間・到達高は黒潮町と比較にならないが、市民一人ひとりが、防災意識を高めて頂くよう投げかける必要を感じた。

まずは、先日配布された「我が家の防災マニュアル」を読んで頂くことから始めよう。

【視察先】黒潮町

【所 感】衛藤延洋

2012年の南海トラフの被害想定において黒潮町は、最大震度が7、最大津波高が34.4mという、日本一厳しく、信じがたい地震・津波災害に襲われる可能性があるということが科学的に示された。

黒潮町が合併で誕生した当時の人口は3万人を超えていたとのことであるが、日本一危険な数値が示された町への風評被害もあり、南海トラフ地震に襲われる前に、「震災前過疎」の波に飲み込まれる危険性も秘めてきた。黒潮町は、その現実を受け止め、先人から受け継いだ「ふるさと」を守り、次世代へ引き継ぐ確実な取り組みを行政、住民、学校、すべてをあげて懸命に取り組んでいる。住民の命を守る「防災・減災対策」の取り組みも目を見張るものがある。

このようなことから、本市においても津波に対する危険性を軽んじることなく、防災教育啓発の大切さを感じた。



東北地方太平洋沖地震でも明らかになったが、地震災害で最も多くの人命を奪うのは津波である。高知県が2013年に公表した被害想定では、黒潮町で最悪の場合2,300人の犠牲者が南海トラフ巨大地震で発生する可能性があり、その内2,100人(91.3%)は津波によるものとされている。学校現場で教えていることは、とにかく「揺れたら逃げる。より早く、より安全なところへ」である。

一人ひとりが、一生懸命逃げる防災教育・啓発及び訓練を徹底して行っている。

特に、義務教育9年間においては、黒潮町で編成した「津波防災教育プログラム」及び高知県が策定した「高知県安全教育プログラム」に基づき、“知識の防災教育”に加えて、児童生徒の自己有用感、自己肯定感を高め、地域貢献力や生きる力を高める“命の教育”を進めている。

大分市ではこのような現実的な厳しさが子どもたちに伝わっているのか、「防災教育は、継続することがもっとも重要である」。黒潮町の取り組みを他山の石とすることなく、大分はもとより全国での積極的な取り組みの必要性を感じた。

支 出 調 書

支出番号	第 4-10 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 4月 28日 起票			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥3,093 —		
支出内容	新聞購読料として(4月分、仲家議員)		
支出先	大分合同新聞川添志村プレスセンター		
領収書等貼付欄			
別紙計算書のとおり			

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

平成 30年 4月 28日

会派代表者 殿

会派名 新市民クラブ  
氏名 仲家 孝治



新聞購読料計算書

(平成 30年 4月分)

新聞名	金額 (円)	販売店名	備考
読売新聞 朝刊	3,093	読売センター鶴崎	対象外新聞(個人負担分)
大分合同新聞	3,093	大分合同新聞川添志村プレスセンター	
請求額 (対象外新聞を除く)	3,093		

- ※ 1紙を購読している場合は、個人負担となるので提出不要。
- ※ 2紙以上購読している場合は、1紙を個人負担とし、これを超える分を対象とする。
- ※ 領収書は、裏面又は別紙に貼付し、添付してください。

領 収 証 30 年 4 月分  
仲家 孝治 様



028-0135

銘 柄 名	部 数	金 額
大分合同新聞朝刊	1	3,093
合 計 (消費税含む)		¥3,093



ご愛読ありがとうございます。上記金額を領収致しました。

[Redacted area]

領収日 30 年 4 月 28 日

大分合同新聞川添志村プレスセンター  
所長 大平 要  
☎503-6555 大分市大在北1丁目15番14号

本領収証に書かれたお客様の個人情報は、当プレスセンター(販売店)において適切に管理し、新聞等の配達・集金、デリバリー、プレスセンターからの各種ご連絡・新聞・出版物等のご案内などに利用させていただきます。



領 収 書

区域 28 全戸 309 お問合せNo 03734

お名前 仲家 孝治 様

リバーサイド若葉台 2-13  
30 年 4 月分

銘	柄	部数	本体	消費税	合計
1	読売新聞 朝刊	1	2,864	229	3,093
2					
3					
合 計			3,093 円		

◇左記の通り領収しました。

領収日 30 年 4 月 28 日





読 売 セ ン タ ー 鶴 崎  
大分市中鶴崎1-4-15  
TEL 521-8908 FAX 521-8957




※裏面もあわせて内容を十分お読みください。

支 出 調 書

支出番号	第 4-11 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 4月 28日 起票			
支出科目	人件費		
支出額	¥48,480 —		
支出内容	補助職員 [REDACTED] 4月分賃金として		
支出先	補助職員 [REDACTED]		

領収書等貼付欄

No. \_\_\_\_\_



新市民777様

金額	¥	4	8	4	8	0
----	---	---	---	---	---	---

但 4月分補助職員賃金とし  
30年 4月 28日 上記正に領収いたしました

内 訳 \_\_\_\_\_  
 税抜金額 \_\_\_\_\_  
 消費税額(%) \_\_\_\_\_



GR1517

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

# 2018年 4月 勤務時間計算表



時給	平日	¥1,000
	休日	
交通費	往復	¥720

氏名 

日	曜日	始業時刻	終業時刻	休憩時間	実働時間	時給	日給	交通費	小計	備考
1日	日									
2日	月									
3日	火									
4日	水									
5日	木									
6日	金									
7日	土									
8日	日									
9日	月	9:30	16:30	1:00	6:00	1,000	6,000	720	6,720	
10日	火	9:30	16:30	1:00	6:00	1,000	6,000	720	6,720	
11日	水									
12日	木	9:00	12:30	0:00	3:30	1,000	3,500	720	4,220	
13日	金	9:00	12:00	0:00	3:00	1,000	3,000	720	3,720	
14日	土									
15日	日									
16日	月	10:00	13:00	0:00	3:00	1,000	3,000	720	3,720	
17日	火	9:30	16:30	1:00	6:00	1,000	6,000	720	6,720	
18日	水									
19日	木	9:30	16:30	1:00	6:00	1,000	6,000	720	6,720	
20日	金									
21日	土									
22日	日									
23日	月	10:00	16:30	1:00	5:30	1,000	5,500	720	6,220	
24日	火									
25日	水									
26日	木	9:00	12:00	0:00	3:00	1,000	3,000	720	3,720	
27日	金									
28日	土									
29日	日									
30日	月									
—	—									

## 4月分給与明細

実働時間	42時間 00分
給与	42,000
交通費	6,480
支給額合計	¥48,480

代表者 印	経理責任者 印
	



様式第16号

平成 30年 4月 1日

大分市議会議長 殿

会派名 新 市 民 ク ラ ブ




代表者 高橋 弘巳



## 補 助 職 員 等 雇 用 (変 更) 届


次のとおり下記の者を雇用 (変更) しましたので届出いたします。

記

- |        |   |
|--------|---|
| 1 氏 名  |  |
| 2 生年月日 |  |
| 3 住 所  |  |
| 4 雇用目的 | 政務活動業務補助  |
| 5 雇用期間 | 平成 30年 4月 1日から<br>平成 31年 3月 31日まで   |
| 6 変更理由 | 契約更新  |

※雇用契約書の写しを添付すること。

## 補助職員雇用契約書

新市民クラブ 代表者 高橋 弘巳 (以下「甲」という。) と  (以下「乙」という。) とは、以下の条件により雇用契約を締結する。

### 1. 雇用期間

平成30年 4月 1日～平成31年 3月31日

但し、甲及び乙から契約解除の申し出がある場合は、この限りではない。

### 2. 勤務場所

大分市荷揚町2番31号 新市民クラブ会派控室

### 3. 仕事の内容

甲の政務活動の補助事務

### 4. 勤務時間等

9時00分から 17時00分迄 (うち休憩時間60分)

### 5. 服務について

(1) 服装は、事務の仕事に適したものとする。

(2) 守秘義務の厳守

(3) 大分市庁舎等管理規則の遵守

### 6. 週休日・休日

(1) 毎週 土曜日と日曜日 (週休日)

(2) 国民の祝日 (休日)

(3) 年末年始 (12月29日から翌1月3日まで)

### 7. 所定外労働

なし

### 8. 休暇

なし

### 9. 賃金

(1) 基本給 時給 ( 1000 円)

(2) 諸手当 交通費 720 円/1日

(3) 賞与 なし

(4) 支払日 各月末日とする。

### 10. 契約更新の有無

更新する場合があります。

### 11. 退職

乙は退職を希望する場合には、少なくとも30日前迄に甲に届け出ること。

### 12. その他

本契約書に定めるほか、契約・記載事項に変更が生じた場合は、双方話し合いにより速やかに処理するものとする。

平成30年 4月 1日

所在地 大分市荷揚町2番31号

(甲) 名称 新市民クラブ 代表 高橋 弘巳



被雇用者

住所 大

(乙) 氏名

